

明代初期に洪武帝が発動した疑獄事件を取り上げ、その背景や政治的意図を詳細に検討。著名な事件の知られざる内実に迫り、歴史研究の空白を埋める好著。

明代中国の疑獄事件

藍玉の獄と連座の人々

中央大学教授 川越泰博著

序語

第一章 涼国公藍玉とその死

- 一 藍玉の獄に至る時代状況
- 二 藍玉のパーソンナリティ
- 三 藍玉誅殺の月日

第二章 『逆臣録』と『藍玉党供状』

- 一 藍玉党と『逆臣録』
- 二 『逆臣録』と『藍玉党供状』

第三章 藍玉の獄と詩人行王

- 一 王行に関する伝記史料
- 二 王行の履歴
- 三 王行と藍玉の獄

第四章 沈萬三一族の藍玉の獄

- 一 陳高華氏論文簡介
- 二 沈萬三一族と藍玉の獄
- 三 再び陳高華氏論文について

第五章 藍玉の獄とモンゴル人 乃児不花とその周辺

- 一 達官乃児不花とは？
- 二 乃児不花という人物
- 三 乃児不花誅殺の背景
- 四 乃児不花告発の波紋

第六章 藍玉の獄に連座した火者たち

- 一 火者の連座事例
- 二 火者の来由
- 三 火者と宦官の間
- 四 火者と功臣家の家政

第七章 刀鋸の彼方に

- 一 還郷政策の行方
- 二 文臣の連座
- 三 武臣・衛所官の連座
- 四 衛所官の配置転換
- 五 刀鋸の由来

後記

付 『逆臣録』 所載藍玉党人名一覧 / 索引

確かに、これら五つの疑獄事件は、洪武帝の皇帝権強化のために展開されたものであり、一種の連環性を有するものであった。そのため、……皇帝権強化策につながる諸改革が行われたのであったのであり、洪武時代の疑獄事件は、檀上氏のように統一的に捉えるべきであろう。ただ、洪武二五年（一三九二）四月における皇太子標の死、同年九月における皇太孫の決定をうけて発動された藍玉の獄においては、「生き残っている功臣・官僚達」に弾圧を加えるという側面が強く、前四者のような改革・政策の実施という側面は全くなかったであろうかとの疑問が抱かれる。……

皇太子標の急死、それによって生じた同年九月における皇太孫の決定は、洪武帝自身予想もしていなかった事態であった。かかる緊急事態の発生を、一つの導火線として、年少の皇太孫の近い将来の登極を見据えて、その地位を安泰ならしめるために、洪武帝は藍玉の獄を発動したのである。だが、それは、以前の疑獄事件と同じように、「生き残っている功臣・官僚達」に対する弾圧に止まらず、かかる弾圧を通して、洪武帝が、何かの改革を目論み、貫徹させよとしたという隠された目的はなかったのであろうか。これを探ることが、本書における最終的な目的である。」序語「より

体裁

・四六判・上製・カバー
・二八〇頁

定価

・三〇〇〇円
(本体価格/税別)

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四 一四九
電話〇三(三八二八)九二四九
<http://www.fukyo.co.jp>

注 文 書

流通センター
取扱品

出版
地方

発売

風響社

TEL: 03-3828-9249

本体

三〇〇〇円

部

川越泰博著

明代中国の疑獄事件

藍玉の獄と連座の人々

ISBN4-89489-011-9 C3022 ¥3000円

【お客様控え】

ご氏名
ご住所

お電話

月 日